



市長選挙

飯田敏勝氏 大善戦!

「議会軽視」が続く横暴な市政運営を続ける水谷市政に対し、元共産党市議の飯田敏勝氏「日本共産党推薦」「明るい革新市政をつくる会」支持IIが挑んだ網走市長選挙は、過去最低の投票率(44.37%)となる中、飯田氏が4749票(得票率38.1%)と過去最高の得票を得る大善戦でした。

選挙戦は「コロナ問題」「ゴミ処理問題」「ホテル重油漏れ問題」「新電力問題」などで、情報を隠し、市民と議会から怒りと不信の声が広がる中で行われました。市民からは「何とか選挙にしてほしい、3回続けての無投票だけはやめてほしい」との声が広がり飯田氏の立候補となりました。

勝利したに等しい

開票結果が判明した午後11時20分頃、飯田氏の携帯には「勝利したに等しい善戦だった」などの労をねぎらう電話が何度となくかかってきました。

選挙事務所に集まっていた支持者やマスコミ関係者からも、「すごい、想像以上の結果」と驚きの声が上がりました。

飯田敏勝氏は「水谷市長には、今回の選挙結果を真摯に受け止め、市政運営を行ってほしい。保守の方、革新の方、そして幅広い市民のみなさんに支えられた選挙でした。今後も一市民として頑張りたい」と語りました。

市民の声に答えて

実質14日間のたたかいを終えた共産党



松浦敏司市議は「何より市民の思いに答えて選挙をたたかいた、水谷市政の問題点を明らかにする。市民の思いを公約にしてたからか、これが重要でした。『市民アンケート』を繰り返し行っていたので、共産党の政策に市民の願いを重ねて、重点公約を作り上げてたからか、ことができました」と話します。

コロナに感染し、十分にたたかうことができなかった村椿敏章議員は「告示直前の『公開討論会』を若いお母さんなど多くの人に見ていただきました。こうした新しい選挙のたたかひに学び、来年の市議選挙をたたかいたい」と決意を話しました。

重油流出事故

市議会、道議会に意見書

汚染土全量撤去へ

総務経済委員会は、10月18日に道議会の各会派を訪問し、油流出事故の汚染土撤去の具体的対応を求める意見書を手渡し、道議会議員へ協力を要請しました。

日本共産党道議団からは真下紀子、菊地葉子、宮川潤道議団に対応していただきました。



道議団に手渡す小田部委員長

松浦敏司市議の奮闘



網走市長選挙の投票率44.37%は、現職の市長への批判と

受け止めると同時に、2度の無競争当選を許した私たちの活動への批判でもあったと感じています。

飯田敏勝さんは告示3日前の立候補表明でしたが、現職の市長を相手に一歩も引かない4749票、得票率38%となり、市長選挙において過去最高の得票・得票率を出しました。それまでは、36年前の1986年に行われた安藤哲郎さんの4期目の戦いで、私が4399票・得票率29%が最高得票・率でした。得票率では約10ポイント伸ばしたことになります。大変な変化です。飯田さんの得票は、現職の市政運営に対する厳しい批判の票だと現職は受け止めるべきです。

これからの4年間の市政運営は、これまで以上に議会側と厳しい対決が予想されます。私たちは、4年後の市長選挙を展望した日常活動が大事になりますが、オール網走の活動を目指して頑張ります。

村椿敏章議員



3年前には新庁舎建設位置ありき、1年前は廃棄物中間処理の広域化ありきと市民の声や議会の議論を無視する水谷市政に市民の不満は大きなものになっていました。市長選は有るか無いか夏から取りざたされてきました。

他の政党や団体の動きはありましたが、立起表明する人がいないまま10月になっていました。私たち日本共産党は「地方自治体が国の悪政の防波堤」となるよう議会で質問していますが、市長交代までには至っていませんでした。今回、告示3日前に立起表明した飯田敏勝さんには感謝の言葉しかありません。

当選にはなりませんでしたが、4749票の得票は水谷市長に多くのことを突きつけたのと同時に闘ってこそ日本共産党だと教えられました。

流氷

10月11月に熟すグミがあります。その名の通りアキグミです。せせらぎ公園や道立公園(天都山)にあります。▼この

仲間のナツグミは、4月6月に花を咲かせ6月には俵状の花時期はナツグミと同じですが、果実が秋に熟します。赤い球形で8mmほどの小ぶりな実です。枝にツブツブびつしり込み合った果実をつけます。タンニンを含むので少し渋みがありますが、ナツグミ同様に生で食べられます。リコピンやカリウムを含み優れた栄養成分があります。▼アキグミは、高さ2〜3mで、太さ5〜7cmになる落葉低木です。枝には丈夫な鋭いとげがあります。葉は長さ4〜8cm、幅1〜2.5cmで互い違いにつきまします。根には、フランキア属の放線菌が共生し窒素固定を行うので海岸などのやせ地でも育ちます。▼このほかに栄養価の高いグミのなかまにサジーと呼ばれるユーラシア由来のものが、道内で栽培されています。

博物館友の会会員 小森



アキグミ